

主イエスは、私達の信仰が強められることを本当に望んでおられます。あなたたちの信仰はどこにあるのか、主イエスは色々なところでこの言葉を弟子達におっしゃいました。それは弟子達にあきれているのではなく、主なる神のみ心にかなうものに弟子達が育てられるように、訓練のためおっしゃった言葉でした。「私達の信仰を強めてください」この言葉が発せられたとき、主イエスはどれだけお喜びになったことでしょうか。

主イエスの本日の教えからは、信仰がこの世で最も偉大な力であることが言われています。ここに出てきました例えは、突拍子もないことに思えますが、当時の社会では、このように言葉がただの言葉にとどまらない事を示すために、いわばリアルな表現をするために、このような言葉が好んで使われていたようです。もし人間の目には不可能と思えることがあっても、信仰をもって主なる神に寄り頼めば、御心にかなう願いをなせば、それは不可能ではない、と教えているのです。

旧約聖書の詩編には、人間的な絶望に陥って、誰の目にも救いの道がないような状況で歌われた嘆きの詩編が多く見られます。しかしその中で作者が見出したものは、すべてを委ねることによって与えられる主なる神の平安と、人間の目には不可能なことでも、主なる神にとっては不可能なことではない、自分勝手な気持ちと、自己中心を離れたところで真の救いの道がある、ということでした。旧約聖書の時代にはまだ主イエスの十字架による救いは示されておりましたが、主なる神の救いの業はアダムの墮落から始まっておりました。詩編の作者達は、これは理想ではなく事実なのだと、語っているのです。私達は主なる神によって信仰を強めていただかねばならないものであります。そして主なる神が共にいて力を与えてくださるということをつねに思いださねばならないと思います。

そしてさらに私達のなすべき信仰生活が示されております。私達が信仰生活を送るとき、それが主なる神に認められるために、まるで恩を着せるような信仰生活であってはならないということであります。私達は自分に与えられた賜物をささげ、信仰生活を送ります。そのなかで私達は人間的な欲や価値判断を離れて主のために働きます。そもそも私達に与えられた賜物は主なる神が与えてくださったものなのです。だから私達はそれで主なる神に恩を着せたり、認

められるために用いることは許されないのです。私達に出来るのは、主なる神より与えられた賜物を精一杯用いて、最善を尽くす。それが実は私達が主なる神のみ心にかなう業をなすことなのです。私はこんなことをした、他の人が誰もしないこんなことを進んでした、だから私は他の人より大きな救いにあずかれるはずだ、そういう事を考えるならば、主イエスははっきりと「あなたの信仰は弱い。もっと強められるよう、祈り努力しなさい」と言われるのです。そして私達が主なる神より与えられる使命を喜んでたし、特別なことをしたのではなく、当然のことをしたまでであると本当に思えるものになりなさい。と教えているのです。実はそこに真実の信仰生活の喜びがあると知っているのです。

私達は信仰が強められ、ますます信仰生活の喜びを感じて生きて行くことが必要です。それが御心にかなう事であり、本年を通して学んでまいりました天国への道であります。それは自分の都合や考え、利益から解放されて、すべてを主なる神においたところで取り組むべきことでもあります。私達がそのような生活を送ることが出来ますよう、主イエスは教え、模範を示されました。主イエスはこの世では決して高い存在ではありませんでした。むしろさげすまれ、低くされている人達の友とされました。しかし主イエスはただ主なる神より与えられた業をなしたただけであると、言っておられました。十字架の贖いもまた、主なる神より与えられた業であり、主は一度としてこの苦い業を誇ったことはありませんでした。

私達もまた、主イエスの示された模範の道に続いていくものとなりたいものであります。